

第5章 下野谷遺跡の保存活用に関する基本的な考え方

1 「縄文から未来へ したのやから世界へ」

史跡の保護では、国民共有の財産である史跡の本質的価値を構成する要素を保存し未来に継承することが重要であるが、加えて、その多様な価値や魅力を顕在化して広く社会に示し、現代につないで文化や人の心を豊かにし、また、史跡を核とした地域活性化や地域連携を推進することも重要である。これらは遺跡保護の意識醸成につながるものであり、このことを通して貴重な文化遺産として愛され、守られていく史跡へと成長していく。

史跡下野谷遺跡においては、縄文時代中期のムラ、その中で育まれた縄文文化やその知恵、人や社会のつながり、それらを支えた景観を確実に保全し未来に継承することが求められる。

また、下野谷遺跡は都市部に残された貴重な遺跡であることから、それらの価値の保護には地域住民をはじめとした多くの人々が積極的に参加し、人やまちとともに成長する遺跡であることが望まれる。都市部における遺跡の保存や整備には、住宅密集地であることによる課題もある一方で、人口の多さは多様な興味、関心を持つ人々の存在や、遺跡と関わることのできる人の多さにつながる可能性がある。また、遺跡への国内外からのアクセスの良さ、研究機関や商業施設等が周辺に多く存在することなどは、遺跡の活用において大きなメリットである。史跡下野谷遺跡は、都市部にある遺跡をどのように保存、活用、整備していくかといった課題や方法などを考える「都市型の遺跡保護」のモデルとなりうる史跡である。

このことを踏まえ、今後の下野谷遺跡の将来像を掲げるとともに、保存と活用のコンセプトを「縄文から未来へ したのやから世界へ」とし、その実現に向けて保存、活用及び整備の側面からその方向性や方針を示すこととする。

史跡下野谷遺跡の将来像

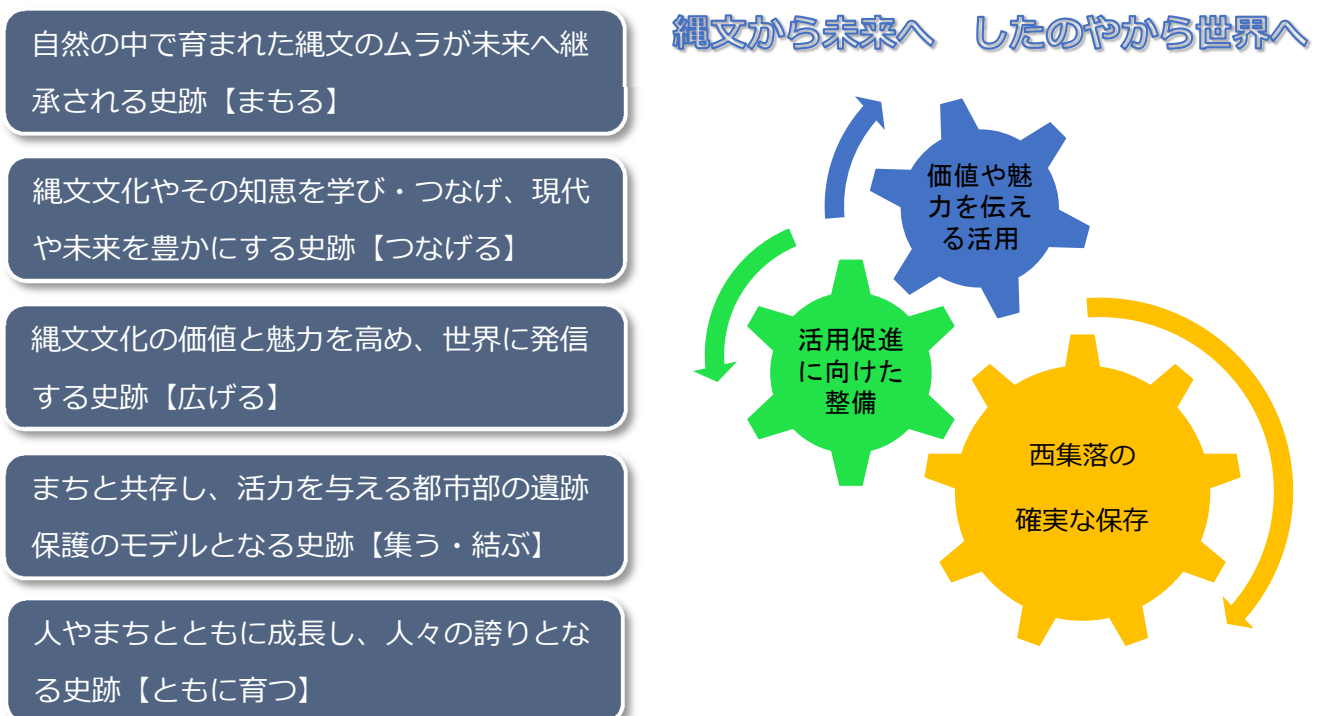


図 33 史跡下野谷遺跡の将来像と保存活用の基本的な考え方

① 自然の中で育まれた縄文のムラが未来へ継承される史跡【まもる】

縄文時代の生活は、狩猟採集を生業の基盤としながらも自然と共存していた定住社会として、人類史の中でも貴重な存在として注目されている。「縄文のムラ」である環状集落は、その重要な要素であり、大規模で遺存状態が良い史跡下野谷遺跡を国民共有の財産として確実に保護していかなければならない。

② 縄文文化やその知恵を学び・つなげ、現代や未来を豊かにする史跡【つなげる】

縄文時代の生活には、自然との共生、持続可能な社会の仕組み、家族のつながり、他集団や資源とのかかわり方など、現代社会を再考する上で示唆に富む点が多い。縄文時代の中で最も安定し豊かな文化を築いていた中期において、南関東最大級の拠点集落であった史跡下野谷遺跡は、縄文の知恵を学び、未来につなげていくことで現代や未来を豊かにできる貴重な史跡である。

③ 縄文文化の価値と魅力を高め、世界に発信する史跡【広げる】

史跡下野谷遺跡は、縄文文化、特に集落や社会の研究の拠点となる価値をもつ史跡である。また、出土している縄文土器が持つ芸術性や工芸の技などに見られるように、縄文文化は日本文化の基層となる文化である。縄文文化の調査・研究の中心的な役割を持ち、その成果によって史跡や縄文文化の価値と魅力を高め、さらに、国内外へ発信していくことが重要である。

④ まちと共存し、活力を与える都市部の遺跡保護のモデルとなる史跡【集う・結ぶ】

約1,000年間も集落が継続したことは、この場所が平和で安定した社会を維持できる環境に恵まれていたことを示す。また、出土遺物からは、拠点集落として人や物や情報が集まるような場所であったことがうかがえる。このことから、史跡の価値や魅力を示すうえで、現代においても史跡を拠点として人が集い、結ばれ、まちの賑わいを生むような活用が望まれる。

また、都市部に良好に残された貴重な文化遺産である史跡下野谷遺跡は、都市部においてどのように遺跡を保存・活用していくかといった都市型の遺跡保護のモデルにふさわしい遺跡である。

⑤ 人やまちとともに成長し、人々の誇りとなる史跡【ともに育つ】

下野谷遺跡は、その第1次調査の契機から市民が主導するなど、これまでも調査・研究、活用のそれぞれの場面において市民が大きな役割を担ってきた。今後も、行政だけではなく、市民が積極的に保存、活用及び整備の場面に参加できる取組を行うとともに、その中で常に新たな価値や魅力が見出され増えていくことが重要である。人やまちとともに成長し、まちの誇りとなり、人々に愛される史跡となることが望まれる。

2 下野谷遺跡の保存、活用及び整備に関する基本的な考え方

史跡下野谷遺跡の将来像やコンセプトを踏まえ、保存、活用及び整備の3分野から実現に向けた取組を推進するに当たり、以下の保存、活用及び整備に関する基本的な考え方のもと、次章以降でそれぞれの現状と検討項目を整理し、今後の方向性や方針、具体的な方法を示すこととする。

(1) 史跡の本質的価値を有する西集落(史跡部分及び指定候補地)の確実な保存 (第6章)

史跡下野谷遺跡の本質的価値は、集落全体の内容、規模、その持つ意味にあり、西集落全域を確実に保存することが極めて重要である。

そのために、土地所有者等への史跡保護に対する理解を深めるよう努め、西集落全体の史跡地への指定とともに、公有地化を図り、確実に保存すること、またその価値を恒久的に維持・継承するため、保存・管理の方針を明確にする必要がある。

加えて、史跡の価値を補完する景観や西集落とともに双環状集落を構成する東集落といった周辺環境の保全についても検討する必要がある。

(2) 下野谷遺跡の価値や魅力を伝え、高める活用 (第7章)

学校教育や生涯学習での活用はもとより、下野谷遺跡の価値や魅力を広く社会に示し、その稀少性の理解について共有を図ることは重要である。また新たな価値を見出すために、引き続き調査・研究を進める必要がある。

また、下野谷遺跡は、地域の核としてまちの魅力を増進する可能性があり、地域活性化に資する地域資源として、遺跡を地域にかけがえのないものとして捉え、地域の連携を図る要として活用されることが期待される。

さらに、その魅力や価値を世界に向けて発信することで、人々やまちの誇りにつなげていくことが望まれる。

(3) 保存を前提とした活用促進に向けた整備 (第8章)

地下に保存されている遺跡については、その価値や魅力をわかりやすく示す必要がある。そのためには、保存を前提として、活用促進に資する整備を行う必要がある。その際、最も重要なことは、史跡の持つ本質的価値を損なうことなく、史跡であるからこそ味わえ、感じ、体験できる場所となるような整備を行うことである。

また、整備に当たっては、下野谷遺跡と周辺環境とを一体的に捉え、まちの魅力を増進する取組を検討する必要がある。